

資 料

案内チラシ

令和4年3月30日付け
読売新聞記事

アンケート

パラダイムシフト

新しい世界を創る京大

現地 & オンライン同時開催決定!

現地開催に加えてオンライン配信も決定しました。
申込みは右下の二次元コードから(事前登録制)



京都からの挑戦

— 地球社会の調和ある共存に向けて —

京都大学創立125周年記念
第17回京都大学附置研究所・センターシンポジウム

京都大学松山講演会

事前申込みをお願いします

募集定員

500名
入場無料

どなたでもご参加いただけます

高校生
歓迎!

2022年

3月5日(土) 10:00~17:00

松山市民会館 大ホール

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
JR松山駅から伊予鉄市内電車「南堀端」下車徒歩3分
伊予鉄松山市駅から徒歩10分

オンライン参加の
お申込みもこちらから

お申込み方法

※新型コロナウイルス感染症防止のため
事前申込みが必要です。

- ウェブで
参加申込みページ <https://kurca.kyoto-u.ac.jp/sympo2022/>
から必要事項を登録ください。
- FAXで
冒頭に「京都大学シンポジウム参加申込」と明記し、①氏名(ふりがな) ②住所③連絡先の
FAX番号および電話番号(受付通知をメールにて希望される方はメールアドレス)
④年齢 をご記入の上、下記までご送付ください。
- はがきで
冒頭に「京都大学シンポジウム参加申込」と明記し、①氏名(ふりがな) ②住所
③連絡先の電話番号 ④年齢 をご記入の上、下記までご送付ください。

問合せ先

京都大学研究連携基盤 基盤企画室 〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53
E-mail: sympo2022@kurca.kyoto-u.ac.jp
TEL: 075-366-7113 FAX: 075-366-7114

※取得した個人の情報は、適切に管理し、本シンポジウムの開催・受付、アンケート集計及び新型コロナ
ウイルス感染症対策以外には利用いたしません。
※やむを得ない事情によりプログラムが変更になる場合があります。

主催：京都大学、京都大学研究連携基盤
後援：愛媛県教育委員会、読売新聞社



プログラム

10:00▶10:10 開会挨拶

時任 宣博(京都大学理事・副学長)

10:10▶10:40

「ナノスケール物質科学と未来のエネルギー」

宮内 雄平(エネルギー理工学研究所 教授)

10:40▶11:10

「10年後、50年後、温暖化で梅雨豪雨はどう変わる?」

小坂田 ゆかり(防災研究所 助教)

11:10▶11:40

「最適化とAI — 計算理論の視点から —」

牧野 和久(数理解析研究所 教授)

11:40▶12:10

「教育データで教え方や学び方を変える!」

緒方 広明(学術情報メディアセンター 教授)

13:30▶14:00

「窒素の環境問題 — 化学肥料がもたらす恩恵と脅威 —」

舘野 隆之輔(フィールド科学教育研究センター 教授)

14:00▶14:30

「「幸せ」とは何か? 未来の暮らしについて考える」

内田 由紀子(こころの未来研究センター 教授)

14:30▶15:00

「経済学で実現する持続可能な脱炭素社会」

清水 延彦(経済研究所 特定准教授)

15:20▶16:50 質問回答とパネルディスカッション

「学問がリードするパラダイムシフトとは?」

パネリスト 湊 長博(京都大学総長)/時任 宣博(京都大学理事・副学長)/講演者7名
司 会 渡辺 隆司(京都大学研究連携基盤)

16:50▶17:00 閉会挨拶

湊 長博(京都大学総長)

Paradigm shift

パラダイムシフト

新しい世界を創る京大



京都大学創立125周年記念

第17回 京都大学附置研究所・センターシンポジウム
京都大学松山講演会

京都からの挑戦

—地球社会の調和ある共存に向けて—

10年後、50年後、温暖化で梅雨豪雨はどう変わる？

小坂田 ゆかり 〈防災研究所 助教〉



2018年7月の梅雨前線による西日本豪雨では、愛媛県肱川を含む日本の多くの河川が氾濫し、“集中豪雨”はますます私たちの身近に迫ってきています。こうした“経験したことがないような集中豪雨”は果たして地球温暖化の影響なのでしょう。そして、このまま地球温暖化が進むとどうなるのでしょうか。どこで、どのくらい頻繁に、どのくらいの強さの集中豪雨が発生し始めるのか。そもそも何故そのような変化が起きるのか、お話ししたいと思います。

教育データで教え方や学び方を変える！

緒方 広明 〈学術情報メディアセンター 教授〉



近年、ギガスクール構想の推進やコロナ禍への対策によって、教育のデジタル化が急速に進展しています。これによって、デジタル教科書や講義ビデオの閲覧履歴、小テスト、レポートファイルなどの教育データが自然と蓄積されるようになりました。そこで、このようなデータを分析して教え方や学び方を改善する、ラーニングアナリティクスという研究分野が注目されています。本講演では、小・中・高等学校や大学におけるラーニングアナリティクスの導入事例を紹介します。

「幸せ」とは何か？ 未来の暮らしについて考える

内田 由紀子 〈こころの未来研究センター 教授〉



スマホで好きな動画をみたり、SNSでいつでも連絡が来たりと、私たちは自由や快適さを手に入れました。しかし幸せが長く続くような社会をつくるためには、個人の快適さだけを追いかけるのではなく、人が互いに助け合えるように、学校や地域、職場などの「場」を良い状態にしておく必要があります。これからの日本社会の暮らしにおける幸せのために今何を考える必要があるのか、社会と心の関係を考える「社会心理学」の視点から解き明かします。

ナノスケール物質科学と未来のエネルギー

宮内 雄平 〈エネルギー理工学研究所 教授〉



ナノスケール物質科学は、ナノメートルサイズの人工物質を作り出し、その特異な性質を解明したり、既存の物質の限界を超える優れた機能を引き出したり、さらには、既存物質では実現不可能な全く新しい道具や装置を生み出すことを目指す学問分野です。講演では特に、ナノサイズの炭素結晶からかつてない性質・機能を引き出すナノ炭素物質科学の最新の成果と、太陽エネルギー利用技術をはじめとする未来のエネルギー工学への展開について、ご紹介したいと思います。

最適化とAI —計算理論の視点から—

牧野 和久 〈数理解析研究所 教授〉



買い物のためのルート検索、限られた予算内で美味しい献立の作成など日々の身近な問題ばかりでなく、情報、運輸、通信、金融、保険、医療、福祉など人類のあらゆる活動に最適化は現れます。このような最適化を高速に行うアルゴリズムは非常に重要であり、近年はAIの必須技術として捉えられることも多いです。本講演では、計算理論の観点からその計算限界を述べるとともに、未解決問題についても言及します。

窒素の環境問題 —化学肥料がもたらす恩恵と脅威—

舘野 隆之輔 〈フィールド科学教育研究センター 教授〉



今から100年ほど前の窒素化学肥料を工業的に生産する「ハーバー・ボッシュ法」の発明により、食料生産は増え、世界人口は飛躍的に増加しました。一方で、人類に恩恵をもたらしてきた窒素化学肥料は、環境中に放出され、温室効果ガスの原因となったり、生態系の汚染源となったり、地球上のいたるところで問題を引き起こしています。窒素の持続的な利用に向き合うために、私たちは何ができるのか、皆さんと考えてみたいと思います。

経済学で実現する持続可能な脱炭素社会

清水 延彦 〈経済研究所 特定准教授〉



持続可能性。脱炭素。見るからに難しい社会の課題を分かりやすく捉えて、解決に向けた処方箋を考えるためにも、経済学は使われています。私たちの住む地域社会は今の状態にあって、どのように変えていくことができるでしょうか？ 一人一人の行動を変えていくために、厳しいルールを作る以外に出来ることはあるでしょうか？ 地域の話から日本全体に関わる話まで、持続可能な社会作りには先駆的に取り組んでこられた「環境モデル都市まつやま」を舞台に、お話ししたいと思います。

質問回答とパネルディスカッション

学問がリードするパラダイムシフトとは？

パネリスト 湊 長博 京都大学総長／時任 宣博 京都大学理事・副学長／講演者7名

司会 渡辺 隆司 京都大学研究連携基盤長



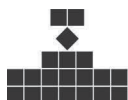
湊 長博
京都大学総長



時任 宣博
京都大学理事・副学長



渡辺 隆司
京都大学研究連携基盤長



京都大学研究連携基盤

Kyoto University Research Coordination Alliance

化学研究所
人文科学研究所
ウイルス・再生医学科学研究所
エネルギー理工学研究所
生圏研究所
防災研究所
基礎物理学研究所

経済研究所
数理解析研究所
複合原子力科学研究所
霊長類研究所
東南アジア地域研究研究所
iPS細胞研究所
学術情報メディアセンター

生態学研究センター
野生動物研究センター
フィールド科学教育研究センター
こころの未来研究センター
物質-細胞統合システム拠点

京都からの挑戦—地球社会の調和ある共存に向けて—

微小な世界では、粒子と振動している電子が波のように振舞う。これを不思議なことが起きる。これを理解して使いこなし、マクロな工学の技術革新につなげることを目指している。

カーボンナノチューブ(CNT)は炭素でできた直径1ナノメートル、長さ100ナノメートル程度の円筒で、微小サイズの特別な性質を多く持つ。円筒の巻き方によって、色や電流が流れるかどうかといった性質が変わる。軽いが引っぱり強いことも知られている。

宮内雄平

工ネルギー理工学研究所教授

ナノスケール物質科学と未来のエネルギー



技術革新 脱炭素に貢献

CNTはアルゴリズムから合成できる。私が大学の卒業研究で発見した方法で、その後、研究の世界にのめり込みまくっていった。

今も同様の方法でCNTを合成しているが3年前ほど前は、巻き方が異なるCNTの引張り強度を調べ世界初の実験に成功した。最も強い構造が明らかになり、史上最強の材料作製に向けた基礎ができた。

熱を特定の波長の光に変換する性質を使い、太陽熱を一つの波長の光に変換する素子の開発も進んでいる。太陽電池のエネルギーの変換効率を飛躍的に高められる可能性がある。

「脱炭素」への貢献も見据えている。一酸化炭素(CO)に含まれる炭素を、COを排出しない方法でCNTを利用価値の高い炭素材料に変換し、それを自然エネルギー利用の効率化といった技術革新につなげたい。COを大気中から減らすサイクルを作ろうと、研究を進めている。

災害起きる前提で対策

小坂田ゆかり

防災研究所助教



10年後、50年後、温暖化で梅雨豪雨はどう変わる？

災害を招く豪雨はどう変化するか、コンピュータで計算する。継続豪雨の発生頻度が今世紀末に1.2〜1.5倍に増えることが見えてきた。発生地域も九州から西日本中心から東北、北海道まで拡大していくことがわかった。

温暖化が進むと、強い上昇気流の発生などで継続豪雨を作る一つの要素も巨大化する。結果として雨は強くなり、降雨時間も長くなる。2018年の西日本豪雨は、予測で得られた将来起こる豪雨の特徴と合致しており、既に温暖化の影響が表れている。

災害から命を守るため、堤防などで洪水を防ぐだけでなく、洪水が起きる前提で対策を考える「パラダイムシフト」が必要だ。人の住まない所で洪水を起かさず、田んぼの水を事前にあけたりして、流域全体で治水対策をとることが重要との認識が広がっている。川の近くなど危険な場所には住まないという考え方も必要だ。

課題解決 ソフトも重要

牧野和久

数理解析研究所教授



最適化とAI—計算理論の視点から—

元の数をすべて計算できるのに、元の数から短時間で素数を求めることは現状で誰もできないので、暗号に利用されている。一般的なコンピュータは1秒に約100億回計算できるが、それでも30人クラスの総席表が合パターを調べるとすれば、人生は到底足りない時間がかかる。スパコン「露」や「富岳」を使ってでも太刀打ちできず、解けないというところから、日本では高性能のコンピュータを開発することが重視されがちなが、ソフトウェアにある優れたアルゴリズムも必要で、両方が進化しないとけない。ただし、何でも解けるわけではなく、有限の時間で答えを出せるアルゴリズムが存在しないことと証明されている計算不可能な問題もあるし、現実的な時間で解けるかどうかを証明できたら100万円の賞金ももらえる問題もある。これほど、アルゴリズムの世界は深遠だ。

*質疑応答

—巻き方の異なるカーボンナノチューブは選択的に合成可能か。
宮内 ある一つの構造を合成し、大量につくる技術はまだない。いろいろな種類のものを作って分ける技術が発達している。

—線状降水帯が発生しやすい地形はあるか。
小坂田 水蒸気の供給されやすさは地形である程度決まるので、あると考える。そういった場所を集中的に観測し、メカニズム解明にも取り組んでいる。

—アルゴリズムの研究が社会で役に立っている例は。
牧野 例えば乗り合いタクシー。客を待たせないよう配車し、コストを削減するシステムのアルゴリズムを開発した。特許を出願している。

—苦手や得意なAI(人工知能)が分析すると、学生自身で学習計画を立てる力が育たなくなるのでは。
緒方 主体的に学ぶ力や、対話の中で学び取る力を、データから客観的に計測して伸ばす研究もしている。

—塵埃の流出はどのぐらい脅威となるのか。
緒野 自然界がどういう応答をするのかは科学者もわからない。目に見える形の脅威がないのが、むしろいい。

—日本の幸福度は日本の古典や思想とどうつながっているか。
内田 日本の幸福度には、無常観のような考え方が含まれ、古典文学によく登場する概念が反映されている。

—経済的な手法で脱炭素を促進する場合、個人の意思決定への影響は。
清水 政策のデザインによる。十分に取り組んでもらうためにも、わかりやすい情報提供が重要だ。



シンポジウムに聞き入る来場者

独創性・多様性がベース



湊長博・京都大学長

現代が抱える気候変動や高齢化、情報化に伴う様々な課題は、既存の科学だけでは容易に解決できない。従来の枠組みを超えた新しい科学や学問をつなぐことが必要であり、京都大学が大事にしてきた独創性・多様性が、そのベースになる。特に自然科学から人文・社会科学まで幅広い分野で先鋭的な研究に取り組んでいる附随研究所・センターが果たす役割は大きい。

松山で開催

京都大にある19の附随研究所・センターによる第1回シンポジウム「京都からの挑戦—地球社会の調和ある共存に向けて—」(京都大 京大研究連携推進本部、愛媛県教委、読売新聞社後援)が5日、松山市の松山市民会館で開催された。「パラダイムシフト」新しい世界を創る京大へ、計7演題の研究発表をそれぞれ成果を報告。パネル討論には、免疫学が専門の湊長博学長も加わり、地球規模の課題への対応で求められるパラダイムシフト(思考の枠組みの転換)を促す上で、文系、理系の壁を越えて協力を交わすこと

講演と質疑応答

- 宮内雄平
・エネルギー理工学研究所教授
- 小坂田ゆかり
・防災研究所助教
- 牧野和久
・数理解析研究所教授
- 緒方広明
・学術情報メディアセンター教授
- 緒野隆之輔
・フィールド科学教育研究センター教授
- 内田由紀子
・こころの未来研究センター教授
- 清水延彦
・経済研究所特准教授

パネル討論

- 司会 パネリスト
渡辺隆司・研究連携推進部長
湊長博・学長
時任官博・理事・副学長
ほか講演者7人

京都大学附置研・センター第17回シンポ

新型コロナウイルスの影響で教育現場への情報端末の導入が急速に進んだ。そこにAIと蓄積されるデータを活用し、教育や学習の支援に活用する研究をしている。学習効果の最大化、先生の負担を最小化するのを目指す。開発したシステムは京都市などの学校・大学で導入され、台湾やインドでも使われている。

デジタル教科書の開発もシステムでは、各学生が授業前、分からない英語や大事なこと、コンテンツを引く。先生はマーカーを基に学生の理解状況

窒素は私たちの体を構成するアミノ酸やたんぱく質の原料だ。人体を構成する元素の多くが窒素とされている。生物にとって不可欠な物質だが、体が多くなると毒にもなってしまうため、食物から摂取し続ける必要がある。

大気の8割は窒素だが、化学的に安定しているため、簡単に使えない。アンモニアなる反応性の高い窒素化合物の形にする必要がある。約100年前、アンモニアを工業生産するハーバ・ボッシュ法が開明され、窒素を含む化学肥料が大量に合成

心の働きについて社会調査で集めた統計データを用い、国際的に重要視されている「幸福」に焦点を当てて研究を続けている。

あなたにとっての幸せは何か。幸せというと、基本的には個人が感じる気持ちという側面が強い。しかし、もう少し幅広く考えるべきで、実は他者と共有されるものもある。幸せの要素として、健康や社会経済状態、環境などが挙げられるが、何を重視するかは文化によって違いがあることが、これまでの研究でわかって

地球環境を持続的に利用するために何が出来るのか。最大のテーマの一つは気候変動への取り組みがある。世界各国と同様に日本も脱炭素社会を目指し、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」を掲げる。その実現に向けた環境政策の理論的な支柱になるのが環境経済学だ。

環境政策の経済的手法である環境税のアイデアは、1976年にドイツで導入された。その後、現在では一酸化

学生の理解度 見える化

緒方広明
学術情報メディアセンター教授



教育データで教え方や学び方を変える！

を判断して教えられるようになった。タブレットで手書きした解答分析も行っている。その中で、ペンが止まったが可視化されて、つまづいている箇所を把握できる。

この問題にはどう解答したのか。データが集まると、単元ごと、急ぎ生がどのくらい理解しているかも分析できる。理解不足と思われるポイントに合わせ、取り組むべき問題をアドバイスすることも可能だ。

学習プロセスと成績の関係を見える化し、過去のデータから成績の予測もできるようになった。夏休みの宿題の取り組み方と、その後のテストの成績を分析し、きちんと復習している学生の成績が最も良くなることをデータで示した。

教育は従来の先生の主観や経験を頼りに行われてきたが、データ分析に基づき客観的にできるものになってきた。大きな変化なので、社会全体で議論しながら良い方向に進めていきたい。

窒素の循環 解明進める

館野隆之輔
フィールド科学教育研究センター教授



窒素の環境問題
化学肥料がもたらす恩恵と脅威

さるようになった。18、19世紀の経済学では、人口増加に食料生産が追いつかず、やがて人口は制約を受けると思われていたが、化学肥料の普及によって農作物の収穫が増え、人口も増え続けた。人類の繁栄が、窒素がもたらした最大恩恵だろう。

一方、激増した窒素化合物が自然に漏れ出し、川の富栄養化や酸性雨を様々な環境問題を引き起こしている。吸収の受け皿の一つが森林で、樹木が土壌に染みこんで窒素化合物を使つて成長し、土壌の微生物は落ち葉に含まれる窒素化合物を再利用している。ただ、自然界での詳しい窒素の循環は未解明の部分も多く、研究を進めている。

脱炭素と異なり、窒素の問題はまだまだ認知度が低い。問題を知らずともった上で、食べ残しをなくしたり、肥料の少ない農作物を食べたりとできることから取り組んでほしい。

幸福概念の文化で差

内田由紀子
こころの未来研究センター教授



「幸せ」とは何か？
未来の暮らしについて考える

北米では個人の自由や選択、競争の中にもまれることで、結果として社会が豊かになるという概念が強い。対して日本ではバランスを大事にし、回り回って幸せがやっつこうという協調的な幸福観がある。

幸福観をより測定する上で、北米型の他者との競争の中で得られる幸福の尺度だと、東アジアの国々では低くなり、

つくりがたい。新たな尺度を作ったり、国際比較すると、様々な協調的な幸福観が重要な要素だとわかった。

主観的な心の働きを測定するのは難しい。脳活動の測定やセンサー技術を活用して精緻化することで意味のある指標にしていける可能性がある。

多くの人々心豊かに暮らしていくには、多様な生き方を認めることも大切だ。研究を通じて、個人を重視しつつも日本の寛容な社会の表現を考えたい。

環境税 効果と負担考察

清水延彦
経済研究所特定准教授



経済学で実現する
持続可能な脱炭素社会

炭素減らす排出量に結びつけて課税する炭素税を多くが国が導入している。

日本には炭素税と銘打った税は存在せず、石油や石炭にかかるとの税率は炭素税の税率と比べて低く抑えられている。他国と比べて税率が低く抑えられているとされている。税を課税し、環境税を先行しがらだが、負担の感度を上げる効果については十分とした根拠に基づいて議論できるのが経済学の方だ。

脱炭素社会を作るため、地域の取り組みも注目されている。排出削減や持続可能な社会の実現には、最終的には地域社会で暮らすのあり方や生活様式を変える、地元の着いた取り組みが決め手になる。

急激な経済成長を経て、持続性という課題が私たちに突きつけられた。経済を深く知り、経済を道具に変えていく環境経済学の知見を用いてその課題に立ち向かっていきたい。

温暖化 研究者の意識変化 ■ SDGsへの対応は ■ 異分野交流に期待 ■ SNSで世界知る

渡辺 「パラタイムシフトをリードする京大」をテーマに、防災、環境学、教育学など様々な分野の視点から意見を交わしたい。

小坂田 防災では、堤防などのインフラ整備に加えて、洪水、災害は起きるものだと考え、過去の災害の被害を後世に伝えていくシステム作りも大事になる。

館野 化石燃料を減らすことは、窒素の問題の解決にもつながる。地球温暖化に絡んだ人々の意識の変化が、窒素の問題にも追い風になっている。

宮内 炭素の基礎的な研究は元々好奇心で進められてきたが、地球温暖化問題の解決につながるという新たな可能性が生まれ、研究者の意識も変わってきている。

時任 昨年、京都大学カーボン・ニュートラル推進フォーラムを設立した。分野横断的で、メンバーは民間、自治体関係者なども構わない。初回の会合は約450人が参加した。

清水 異分野を突き詰めた異なる

* パネル討論



様々な専門家が交わされたパネル討論

分野の人が一緒に来たときに、全く新しいものが生まれる。独創性はキーワードで、京都大はそういう歴史がある。

故野 AIは予測が高度化してきたが、一方で電気を多く消費する問題がある。いかにSDGsに対応する枠組みをつくらなければならない。次の課題になっている。

清水 精緻な分析をする数学の成果を取り込み、経済学が複雑なそれがまたほかの専門分野に波及している。学問間の交流によってパラタイムシフトが成り遂げられている。

緒方 デジタル環境でどんな投資が効果的かはまだわかっていない。今後、データを基に客観的に分析し、効果的な取り組みを共有する仕組みを作れば、日本の教育を大きく変えるだろう。

内田 今、速いスピードで起きている。SNSで知ることが多くなり、共感したり、考えたりできる。情報技術の発達とともに、心のパラタイムシフトを迎えている。

第17回京都大学附置研究所・センターシンポジウム アンケート結果

【会場参加】参加者 111名（うち高校生18名）／申込者172名（うち高校生31名）

【オンライン】参加者 201名（うち高校生47名）／申込者320名（うち高校生59名）

小計 参加者 **312名**（うち高校生65名）／申込者**492名**（うち高校生90名）
63%（参加率）

【関係者】 50名

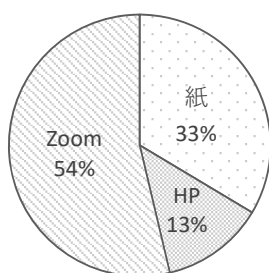
合計 参加者 **362名**

アンケート回答数 149 枚 48%（アンケート回答率）

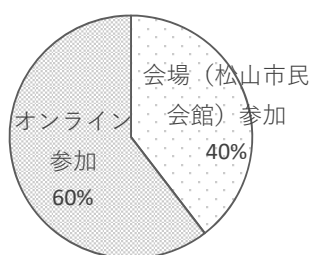
アンケート回答者内訳

【アンケート種別】

【参加形態】



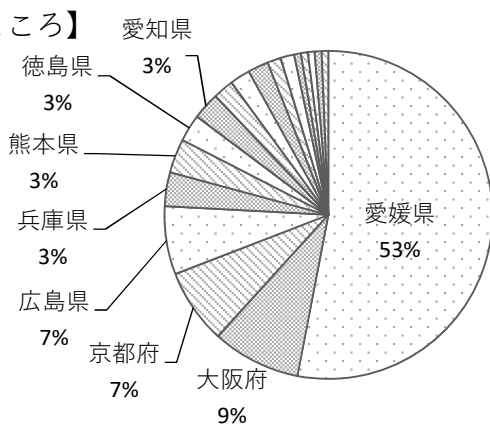
アンケート種別	人数
紙	50
HP	19
Zoom	80
合計	149



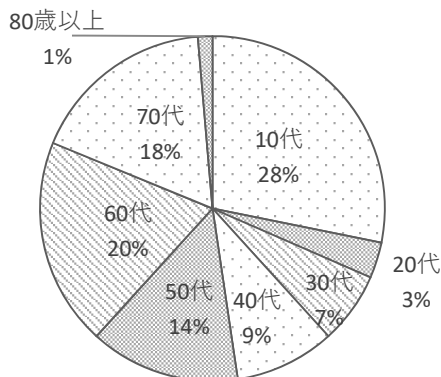
参加形態	人数
会場（松山市民会館）参加	59
オンライン参加	90
合計	149

Q1. あなたのおところ・年齢に○を付けてください。

【おところ】



【年齢】

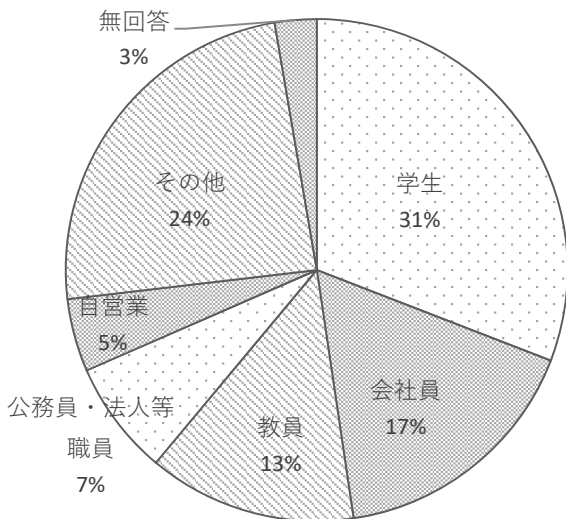


おところ	人数
愛媛県	79 (53)
大阪府	13 (0)
京都府	11 (0)
広島県	10 (3)
兵庫県	5 (1)
熊本県	5 (0)
徳島県	4 (2)
愛知県	4 (0)
高知県	3 (0)
滋賀県	3 (0)
東京都	3 (0)
香川県	2 (0)
福岡県	2 (0)
岡山県	1 (0)
三重県	1 (0)
神奈川県	1 (0)
石川県	1 (0)
奈良県	1 (0)
合計	149 (59)

年齢	人数
10代	42 (15)
20代	5 (3)
30代	10 (5)
40代	14 (7)
50代	21 (8)
60代	29 (10)
70代	26 (10)
80歳以上	2 (1)
合計	149 (59)

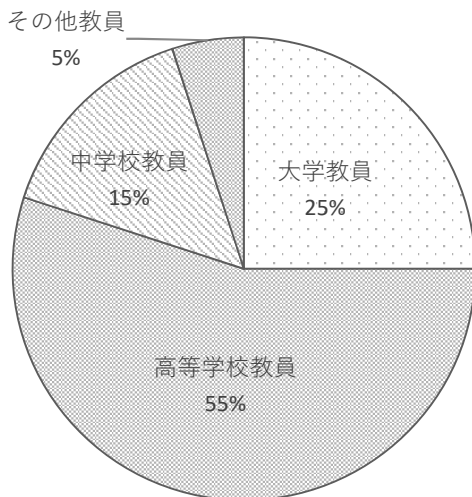
※(数字)は会場参加人数

Q2. あなたの職業等に○をつけてください。



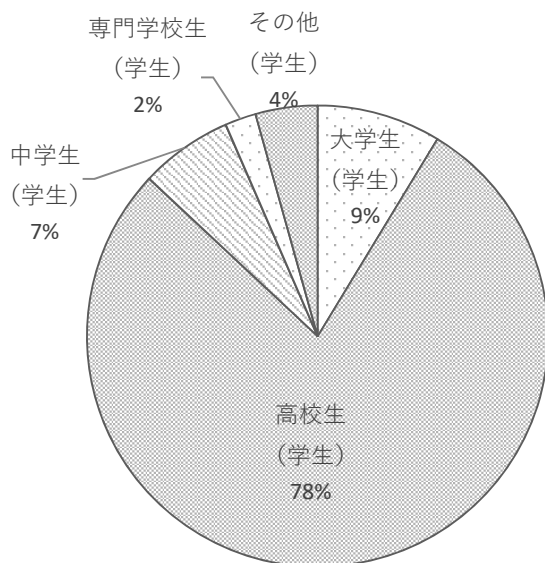
職業	人数
学生	46
会社員	25
教員	20
公務員・法人等職員	11
自営業	7
その他	36
無回答	4
合計	149

【教員内訳】



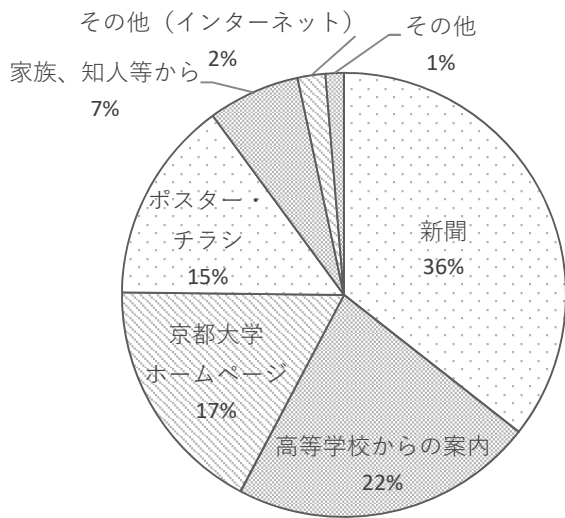
職業	人数
大学教員	5
高等学校教員	11
中学校教員	3
その他教員	1
合計	20

【学生内訳】



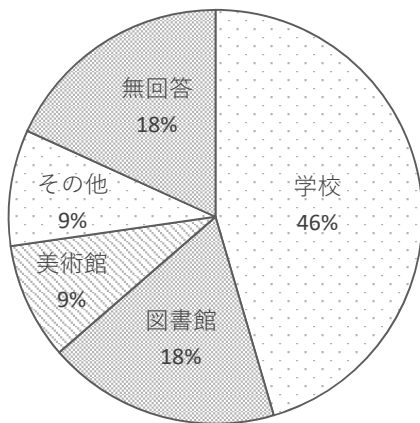
職業	人数
大学生 (学生)	4
高校生 (学生)	36
中学生 (学生)	3
専門学校生 (学生)	1
その他 (学生)	2
合計	46

Q3. 本日のシンポジウムを何でお知りになりましたか。



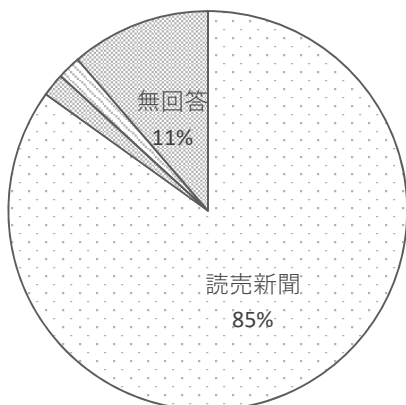
シンポジウムを何でお知りになりましたか。	人数
新聞	53
高等学校からの案内	33
京都大学ホームページ (インターネット)	26
ポスター・チラシ	22
家族、知人等から	10
その他 (インターネット)	3
その他	2
合計	149

【ポスター・ちらし内訳】



ポスター・ちらし内訳	人数
学校	10
図書館	4
美術館	2
その他	2
無回答	4
合計	22

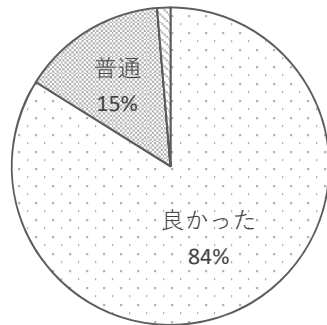
【新聞内訳】



新聞内訳	人数
読売新聞	45
朝日新聞	1
愛媛新聞	1
無回答	6
合計	53

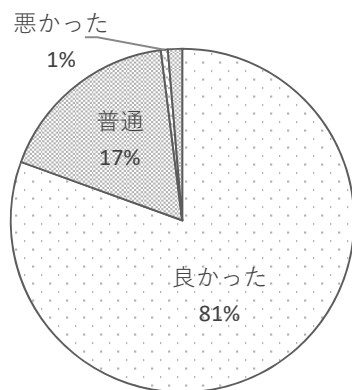
Q4. シンポジウムの内容について

【全体テーマ「パラダイムシフトー新しい世界を創る京大」について】



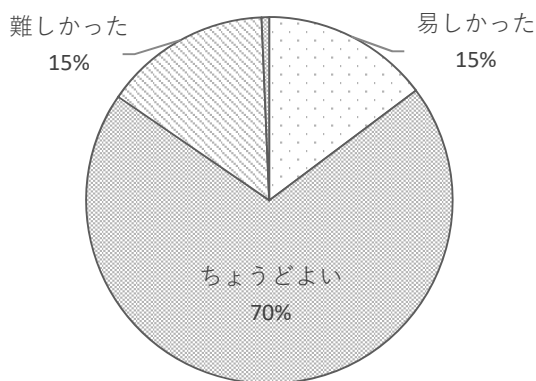
全体テーマについて	人数
良かった	125
普通	22
悪かった	0
無回答	2
合計	149

【講演内容について】



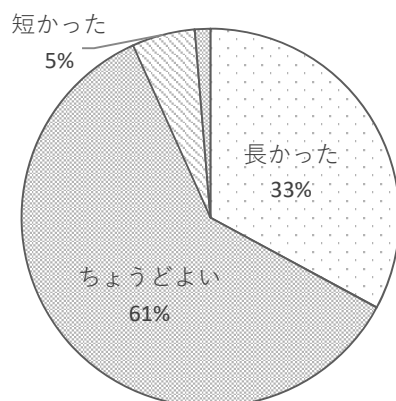
講演内容について	人数
良かった	120
普通	26
悪かった	1
無回答	2
合計	149

【講演のわかりやすさについて】



講演内容のわかりやすさについて	人数
易しかった	22
ちょうどよい	104
難しかった	22
無回答	1
合計	149

【シンポジウムの長さ（10時～17時）について】



シンポジウムの長さについて	人数
長かった	49
ちょうどよい	90
短かった	8
無回答	2
合計	149

年齢	職業等	シンポジウム（内容等）について、ご意見・ご感想をお聞かせください。（600字以内）
70代	その他（フリー回答）	説明する講師によって聞き取りにくい人がいた（ゆっくり、明確に）
10代	中学生（学生）	分かりやすい講演で、とても勉強になりました。とくに、実験動画や会場の方も参加することを取り入れた宮内さんや、図で分かりやすくまとめた小坂さんの発表に興味を持ちました。また、内田さんの話から、将来、心理学を学びたいと思いました。
70代	その他（フリー回答）	午前のみ参加。Good（講演内容のわかりやすさについて、易しかった。）
40代	その他（フリー回答）	1つのテーマで30分という時間があつという間でもっと深い話を聞きたいと思いました。
10代	その他（学生）	様々な分野から将来の日本を考え、どうあるべきか考えさせられました。
80歳以上	—	内容豊かな立派な講演を拝聴させて頂きました。老書生も学生時代を思い出しました。環境や社会が良くなるよう少しでも努力します。
30代	会社員	テーマごとに参加できると良かった。難しいテーマよりも自分の興味を持ったテーマをもう少し聞きたかった。
20代	大学生（学生）	それぞれの教授が専門で研究されていることはパラバラだけど、どの発表にも水平的なつながりがあって、世界的にも目指す方向やパラダイムシフトの方向性は似たようなものがあると気づきました。ただ、合理化やスピードが求められるようになる中で、「幸せ」をどう捉え、実現していくか。日本の幸せの定義に深く納得しつつも教育のパラダイムシフトも”個人に合わせた”ようになっていっていたので難しいなどこれからの課題も見えてきたように思います。第一線で活躍されている教授のお話を聞ける貴重な機会をありがとうございました。
70代	その他（フリー回答）	聴講時間が短くて残念でした。時宜を得た講演に再び参加したく思っています。
60代	自営業	どの講演も興味深い内容であった。参考文献（各先生の論文等）を提示してほしい。
60代	高等学校教員	環境、地球、人類のwell beingの為に、たくさんの研究ありがとうございます。
60代	会社員	「パラダイムシフト」というタイトルの意味が全くわからなかった。もっとわかりやすいサブタイトルが必要だと思う。講演内容の資料がほしい。内容を理解するために絶対に必要だと思う。
30代	公務員・法人等職員	普段聞けないような内容を短い時間で聞かせて頂き勉強になりました。ありがとうございました。
50代	自営業	オンライン対応について、配信方法や連絡方法を記載頂けていればよかった。講演間が短いので質問を書く時間がなかった。
60代	会社員	貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。これからも探求心を持って、日々生活していこうと思います。
30代	その他（学生）	京都府で学習できる方がうらやましいと感じました。
30代	高等学校教員	分かり易く、時間が過ぎるのがあつという間でした。皆さんお話が上手ですね。
60代	自営業	こういう機会はあまりないので参加することができて良かったと思います。
60代	その他（フリー回答）	パラダイムシフトに向けて、最新の研究の一端が聴けて大変興味深いものでした。ありがとうございました。京都大学は自由で良いですね。自分の孫を京大に行かせますので、この伝統を維持して下さい。（10年以上先の話ですが…）
50代	公務員・法人等職員	コロナ禍を体験し、これからの変化を肌で感じる中、今回参加しました。とてもタイムリーなテーマで、全て興味深く伺いました。特に「ナノスケールチューブ」「ラーニングアナリティクス」はとても勉強になりました。幸福や経済とDXの期待とかもあればより嬉しかったです。
20代	高等学校教員	非常に興味深い内容ばかりだった。勤務する学校に持ち帰って授業に活かしたいと思います。
10代	高校生（学生）	京大の先生が研究している内容なんて難しすぎて私には分からないかもしれないと思っていたけれど、どの先生も分かりやすく話をしてくださり、とてもためになる時間を過ごせました。
40代	自営業	専門・研究されている先生方のお話を聞けてよかったです。子供の進路選択、将来の為にになりました。
10代	高校生（学生）	一流大学の教授方の話を拝聴する機会を無料で得られることは本当に有難いことだと思います。高校生の私でも興味を持てる話が多く、良い勉強になりました。
10代	中学生（学生）	とても有意義だった。
10代	中学生（学生）	教育データで教え方や学び方を変えようという議題を聞いてICT教育の利便さを改めて感じた。湊総長の大学の多様性の話で学問の広さを感じた。
70代	その他（フリー回答）	マスコミや新聞などである程度耳にした言葉をよく具体的に説明を受けよくわかりました。京都は観光には数回行きましたが、京都大学はユニークなおもしろい大学だなと思いました。自分の好きな研究をつづけられて世界に発信してほしいです。皆さん知的でステキな先生方で、充実した1日でした。感謝！年はとりましたが今からでも多様性を意識して対応していきます。
20代	高等学校教員	グラフが小さくて見えにくいことが多くあった。
10代	高校生（学生）	京大の連携を大切にす姿勢がよくわかった。
10代	高校生（学生）	個人的に内容が残った話は、牧野先生の話です。Markovの写真がなかったので、似てるだろうという理由でMarkovの父の写真をはっていたのは笑えました。
10代	高校生（学生）	他分野にわたってそれぞれ短時間の説明だったので、聴きやすかったと思います。

年齢	職業等	シンポジウム（内容等）について、ご意見・ご感想をお聞かせください。（600字以内）
10代	高等学校教員	カーボンナノチューブなど炭素の可能性や使われ方の話が有意義でとてもおもしろかった。牧野さんのアルゴリズム、最適化に関する話の中では、最近数字で習ったことや情報の授業で扱ったことが多く出てきてとても身近に感じられた。
70代	その他（フリー回答）	内容は現状ではこの程度までしか考えられないと思う。全地球上の人が腹八分で生きてもいつかは地球をくいつぶす！
60代	その他（フリー回答）	様々なテーマがあり、興味深かった。
10代	高校生（学生）	高校で習った内容や新聞などで読んだ断片的な内容が実社会深く結びついていることを感じることができました。書いた質問にたくさん答えていただいたのが嬉しかったです。
10代	高校生（学生）	いろんな方面の話聞いて面白かった。高校生でも分かるようなわかりやすい説明やスライドでありがたかった。
10代	大学生（学生）	いろいろな分野のパラダイムシフトを知ることができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。
10代	高校生（学生）	愛媛県の市民に開かれた場で、パラダイムシフトへの多分野に渡る挑戦とその現状を知る機会を得られたのは、非常に幸運であり、また将来自然科学に携わる研究者になることを志す私にとって、有益であったと確信できるシンポジウムでした。特に、未開の領域が広がる最先端に立ち、未来を見据える教授方の口から直接語られる講義は、どれも興味深いものでした。脱炭素社会の実現を含め、現在直面するエネルギー問題への鍵になり得る、具体的かつ実際的なアプローチがどの研究の先にも存在するように感じ、どの道に進んでもよいのだと肯定された気になりました。コロナ禍の中の不安のなかで、一筋の光が見えたと言っても過言ではありません。
40代	会社員	(Noはセミナー順です)1.CO2の循環技術はこんなことができるのかと知りました。エネルギーに乏しい日本に有効な技術です次世代のために、ぜひ実現してください。2.資料、説明のされ方、とにかく分かりやすかったです。高校生たちの進路までも変える内容でした。3.今、製造企業が必要とし、かつ苦手な分野ではないでしょうか。ぜひもっと社会実装に切り込んでいただきたいです。4.収集したデータの活用、分析のむつかしさを感じました。生徒一人ひとりの個性が失われないように生かしていただき、日本の教育を一段階上げていただきたいと思います。5.CO2ばかりが社会悪ようになってますが、地球環境維持が目標ですね。窒素のマッピングができました。6.当社も働き甲斐やエンゲージメントが数値化されますが、それだけで満足してしまい、肝心なコミュニケーションがないがしろになる事態に。「幸せ」をぜひ多くの人に伝えていただき閉塞した日本社会に光を届けてください。7.スケールの大きなところから実数値までバランスがよく、非常に理解できました。脱炭素社会といえど、企業内ではごく一部のメンバーが必要を意識しているのが実態です。社会を変えるために企業内でもセミナーをしていただきたいと思いました。
10代	高校生（学生）	幸福とは何かの講演が特に印象に残りました。今まで、日本は幸福度がGDOの割に低いことを示すグラフをたくさん見てきて、それだけで日本は幸福度が低い国なのだと思います。しかし、日本人は、アメリカと異なる協調系の幸福を基準としているが故の結果なのだと知りました。何事も、1つの情報でこうだと決めつけるのではなく、多面的に考えるのが大事だと改めて思いました。他の講演もすばらしく、勉強になりました。
50代	—	地球環境や気候変動など、最先端技術や理論をわかりやすく説明していただき、とても有意義な講演でした。特に、カーボンナノチューブに未来を感じました。改めて、京都大学の多様性、懐の大きさをひしひしと体感できた講演でした。これからもこのような講演会を開催し続けていただけたら嬉しいです。ありがとうございました。
60代	会社員	皆さん素晴らしい講演でした。特に小坂田先生の講演は、高校生にも分かりやすい内容で大変良かったです。
40代	中学校教員	様々な分野の研究が交流し合うことでイノベーションが起こっていくことを強く感じたシンポジウムでした。できれば実学とは少し離れているかもしれない人文科学のジャンルのテーマも1つくらい入っていればより多様性が増したようにも思います。普段、中学生と接していて目の前の進路であったり、試験に一喜一憂していますが、総長さんの今の高校生の半分は100歳まで生きるという言葉に、好奇心を持って生きていくことの大切さを伝えていくことの重要性を強く感じました。
40代	会社員	知識を得ることが自分たちの環境を守ることに繋がると思いました。
10代	高校生（学生）	様々な研究で地球環境問題についてアプローチできると知って興味深かった。
40代	高等学校教員	高校生に向けて、どのように進路を選択したかのアドバイスをいただいたことがとても参考になった。
50代	会社員	室内教授、小坂田助教授の講義が分かりやすかったです。牧野教授には1時間は講義の時間が差し上げたかったほど興味深く講義を聞くことができました。緒方教授の講義はスライドの内容が教育現場向けであったように感じました。講義の内容が良かっただけに、一般向けに動画を交えたスライドを増やしていただければ、講義への理解度が高まったのではないかと感じました。
10代	高校生（学生）	新たな発見は少なかった。現代の社会問題に帰着する講義の終わり方はテーマに沿っていたが、ありきたりだと思った。
70代	その他	1テーマの講演時間が30分程度で広く、浅く知るのには適当と思うが途中でついていけなくなる。課題を知るに任せる理解でした。

年齢	職業等	シンポジウム（内容等）について、ご意見・ご感想をお聞かせください。（600字以内）
20代	会社員	各コンテンツ30分という時間の中で、各分野の権威でおられる先生方が分かり易くプレゼンをまとめておられ、非常に勉強になりました。どのお話も非常に興味深く、知的好奇心を満たされる内容でした。
10代	高校生（学生）	とても分かりやすく説明がされて理解しやすかった
10代	高校生（学生）	宮内教授と牧野教授の講演が個人的にとっても興味があって面白かったです。
10代	高校生（学生）	全体的に環境問題の話題になっていた気がします。それぞれに関連はなくてもよいと思いますので、それぞれもっと深い内容が聞きたかったとおもいました。
70代	その他	話題性のあるもので、知的好奇心を刺激させてくれることはありがたいが、講演が多いので、ちょっと疲れる。内容は一人1時間。3人くらいが理想と思います。
10代	高校生（学生）	講演の内容について今までとは違って深く考えられる講演でした。私は講演の中でも「幸せ」とはなにか考えさせられる講演が印象に残りました。私は幸せとは何かを聞かれたときには、自分の欲、娯楽をしている時のものだと捉えてしまいましたが、幸せという価値観は世界での文化の違いであったりと、幸せだと感じる事にはひとそれぞれ捉え方が違うものだと感じました。また、一番衝撃を受けたことなのですが、日本人には幸せをポジティブに考えていない人がいる事に驚きました。そういった点でも初めて知ることがあって興味深い内容だと思いました。
10代	高校生（学生）	私は教育に興味を持っているので教育データで教え方や学び方を変えるというものが一番心に残りました。今学校でタブレットが導入されているのですがあまりよい使い方を私はしていないと思っていました。しかし今日のお話を聞いてから生徒がどのページを見ているかがわかる、手書きの解答を見てどこに時間がかかっているのかを色を変えてわかるようにする、単元ごとの学習者の理解を可視化する、グループに分けるときにその情報を有効活用するなどどれもすごく有効活用しているなと思いました。また、私は特に宿題のことについて興味を持っており、今研究を進めています。夏休みにどのように宿題に取り組んだかについてお話しされたと思いますがその部分が本当に理解して、する期間は関係が全くないということには本当に驚きました。また最適化とAIもすごく興味を持って、どのようなものか知っているだけで証明が何百倍も簡単になるということを学びました。
10代	高校生（学生）	数学の内容自体は一度証明されれば変わることはないが、新たな発見によって定説が覆されたり、数学を発展させて技術革新やパラダイムシフトが起こったりする。シンポジウムを視聴して、学問が社会の動きを先導していく役割の一端を担っているのだと認識することができてよかった。 環境問題の解決には法律の規制ではなく経済的な手法のメリットのほうが大きいというお話を聞いたが、他の問題解決においては法学がどのように関わり、パラダイムシフトを起こすのか、個人的に興味があった。
10代	高校生（学生）	様々な分野のお話を聞く事ができてすごく楽しかったです。 数学や物理、化学を学んでいる身として興味深いお話ばかりでした。 これから長い人生を歩いていく中で、将来何をしていくのか学んでいくのか、AI・人工知能、宇宙工学、生物学、心理学、気象学、などいろいろなものに対して興味があるためすごく悩んでいましたが、焦る必要も失敗を恐れる必要もないという言葉で少し楽になりました。やはり学ぶことは楽しい。自分の可能性を広げ、この世の中をより良くすることができる。研究を重ね続ける先生方の姿勢を見習って日々学んでいきたいです。
50代	その他	説明がわかりやすく、理解ができました。内容も充実していました。
60代	その他	在宅で気鋭の研究者の講義が聴けて良かった。 多方面の話題があり専門的で理解できないことも多かったけれど、世界を良い方向にリードしていこうという若い世代の気概に触れられて、視聴して良かった。
30代	公務員・法人等職員	色んな分野からの視点で様々な内容を聞くことができて大変勉強になりました。 地球温暖化については、人間活動が原因であると断定されたということは、地球の資源が有限である以上、これ以上人口を増やさないようにする点も重要な議題であると感じました。人間だけが自然と共生できていないので、豪雨や森林火災、熱波や感染症で犠牲になるのは、今まで人間が行ってきた地球環境破壊のしっぺ返しであり、ある意味自然から人間への警告であるように感じています。
70代	本学卒業生	孫（早大理工2年と東大理1合格発表待ち）が昨日から泊まりに来ており、今回のシンポジウムの録画を後日見せようと思います。
10代	高校生（学生）	私は数学が苦手だと思っていましたが、アルゴリズムや計算についての講義は面白いと感じました。新たな発見だった気がします。また、興味を持っている心理学の講義も心理学ではどのような研究をするのかの分かり、とても興味深かったです。
60代	会社員	文系・理系の各分野での研究者が、（比較的）分かりやすく工夫された内容の講演をして下さり、知的刺激を受けると共に、主に環境問題での現状についての知識を得ることができ、参加して大変良かったと思います。
60代	大学生（学生）	企業などの教育セミナーや学校の短期講義は三日間程度から1日であれば終日行うのが充実したセミナーなってます。一般の方向けでもこのようなセミナーが地方で開かれる事はとても意義だと思います。
10代	高校生（学生）	現在世界が直面している問題は既存の科学で解決することが難しい中で、新しい枠組み、パラダイムが必要だということを実感できた。一つ一つの学問の研究成果そのものも面白かったが、それ以上に学問同士のつながりの複雑さ、奥深さがとても興味深いと思った。
60代	会社員	興味ある内容で勉強になりました。
60代	公務員・法人等職員	いろいろな分野について、大変興味深く聴講することができました。

年齢	職業等	シンポジウム（内容等）について、ご意見・ご感想をお聞かせください。（600字以内）
80歳以上	その他	京都大学の学風が感じられるような、進取的、学際的な大いなる試みと感じた。
50代	会社員	普段、触れることのない分野の話が聞けて、大変面白かった。
10代	高校生（学生）	興味のある内容がいくつかあって参加しましたが、興味のない学問に関する講演も、わかりやすく、高校生に向けて説明していただいた箇所も多く全体的に全ての講義に関して面白い、と感じました。また機会があったら参加したいです。
70代	その他	私には難しかったですが内容的にはとてもよかったです。次回も参加したいです。
10代	高校生（学生）	知らないことを知る良い機会になりました。またこれからの私や私たちがどうすればいいかなどを改めて考えることが出来ました。ありがとうございました。
50代	中学校教員	京都大学らしい様々な分野のお話が視聴できて、とても良かったです。講演された方、全ての講師の先生が学問を研究されている方だなということを感じるぐらい、熱意が伝わってきました。いつまでも学ぶことの大切さを感じる内容で、とても良かったです。
60代	高等学校教員	京都大学からのメッセージがしっかりと伝わってきました。参加してよかったです。
20代	大学生（学生）	多岐にわたる分野からご講演いただき、非常にインスパイアされました。
40代	大学教員	京大の多様性の発揮された良いシンポジウムでした。
10代	高校生（学生）	好奇心をくすぐられました。
50代	会社員	環境についての話題が多く西日本豪雨の経験もしているので、これからの世界の課題として皆が考えていかなければいけないと改めて思いました。
60代	その他	環境、防災問題も含めて興味ある演題である。多様化する時代を見据えた貴大学に取り組みに共感するとともに今後の活躍に期待します。また、若い人たちへのアピールになったと思います。
50代	会社員	私は内田先生の「幸福」についてのご講演がたいへん興味ぶかかったです。日本の文化を考慮した幸福の捉え方をうかがい、おおいに納得し、ほっこりとした気持ちになりました。今、人同士のかかわりがかなり制限されている厳しい時期ですが、社会が動き出したら自分も動き出せるように準備しておきたいと思いました。
60代	中学校教員	講演が短時間で分かりやすくまとめられていたのが良かった。
50代	その他	地方での開催で仕方ないのだと思いますが、ひとりひとりの先生の時間が短くて残念でした。
70代	その他	1人の講演時間が短く集中して聞くことができました。ただ時間が押して早口になると聞きづらくなりました。内容は今興味があることなのでよかったと思います。
70代	その他	プログラムの専門家の一人の割り当て時間が短いので、専門性が少なく、早口となり聞きづらい点があった。ゆったりと、余裕を持てば、各先生の個性が生かされるのではないのでしょうか。
10代	高校生（学生）	大変面白かったです。特に、心理学の研究についての内容が興味深かったです。これからの進路選択の参考にしていこうと思います。ありがとうございました。
70代	会社員	窒素の問題は、CO2に比べると排出者が限られており、国民全体に呼びかける以前にこれまでの規制がどの程度効果があったかの検証とそれを踏まえた今後のあり方の検討が必要かと思います。
60代	その他	午前中の受講終了時での感想です。講師によって、明確に高校生をターゲットにした話や話し方をされた方とそうでない方がおられたが、どちらも興味深くお伺いした。大学が学問研究の楽しさや奥深さを追求できる場であることと同時に、イノベーションのリーダーとして社会に貢献していく姿勢も見ることが出来た。その意味で高校生だけでなく社会人にとっても有意義な時間となっています。長時間ではあるが、引き続き午後の部も楽しみにしております。
50代	高等学校教員	自然科学の興味深い内容があり良かった。
10代	高校生（学生）	高校生にもわかるように詳しく説明していただけたため、よく理解することができました。今後、私たちにできることは何かということも含めたご説明により、自分の将来、今自分には何ができるかなど改めて考えるきっかけとなりました。

年齢	職業等	その他、ご意見・ご感想をお聞かせください。(600字以内)
10代	中学生(学生)	色々悩んでたくさんまちがえてもいいんだと最後の話ではげまされました。ありがとうございます。
70代	その他(フリー回答)	非常に勉強になりました。各教授の説明も簡潔で良かったです。ありがとうございました。
30代	会社員	(Q4補足) シンポジウムの長さについて、全体での時間は長かった。30分毎はちょうど良い。
40代	その他(フリー回答)	座席にだいぶ空気があったので、席をもう少し分散させてもよかったように思う。てきとうに行けばよいとは思ったけど、トイレがまんしました。(Q4補足) シンポジウムの長さについて、長かったとちょうどよいの中間に丸をしました。
60代	会社員	今日の催しのために新聞広告に莫大なお金を使ったのでは?
30代	公務員・法人等職員	1日中せきをしている人がいたので、退出を促すか、他の席も空いているので、人が多く座っている部分から離すよう配慮して頂けたらよかったです。
60代	会社員	又、是非機会があれば参加させてください。
60代	その他(フリー回答)	レジメがあればありがたかったです。(欲を言えばですが) パワーポイントの文章には、(半角句読点)ではなく、(全角句読点)を使用して欲しい。
50代	公務員・法人等職員	このような機会を設けて頂きありがとうございます。東大とは違う役割意義をこれからも京大には期待しております。
50代	会社員	総長の話しが良かった。多様性の重要なこと、人生は何度でも変わって良い等(チャンスはいくらでも有)。
10代	高校生(学生)	京大志望なのですが、今回のシンポジウムに参加させていただき、思いが強くなりました。勉強を頑張ってもっと賢くなって京大に絶対入ろうと思います。
10代	高校生(学生)	生物学にフォーカスした話もあればより面白かったと思う。
10代	高校生(学生)	来年こそは合格させてください。
50代	会社員	コロナ禍の中、久しぶりに講演会に参加でき、大変うれしく、楽しかったです。四国松山での年1回の開催をお願いしたい。インターネット社会とはいえ、中央と地方では情報格差は大変に酷い状況です。
70代	その他(フリー回答)	地球資源に限りがある中で、ヒトは今後何を選択するか。このまま人口が増えると未来のヒトはたぶん生きて行けなくなる。地球をたべ尽くす、使い尽くすヒトの問題をどう考えるか、どう対処するか。
60代	その他(フリー回答)	毎年あるといいなと思いました。
10代	高校生(学生)	将来の夢として研究者もいいなと思えるようになったいい機会でした。
10代	高校生(学生)	時間配分だけ少し気になりました。30分の講義であっても休憩を挟まず4人連続というのは、聞く側への疲労が容易に予想されます。午前に遅れがあった場合、午後の開始をずらすなどの柔軟な対応が必要であったと感じています。講義だけに集中できるような環境づくり、配慮を希望します。
40代	会社員	私の近くに座っていた学生服の生徒はずっと顔を上げて聞き入っていました。もっともっと多くの若い人たち(特に中学3年、高校1、2年生)に届いてほしいすばらしいセミナーでした。湊総長、時任副学長はやはり言葉に重みがありますね。我が子にも「あせらなくていいよ」と伝えました。松山で開催していただきありがとうございます。次回以降もオンライン開催があるようでしたらぜひ参加させていただきたく思います。
10代	高校生(学生)	オンライン開催をしてくださったのは、本当にありがたかったです。
40代	中学校教員	四国という地方に来ていただけたのは非常にありがたかったです。どうしても都市部の方があらゆるジャンルにおいて機会が多いと言えます。 ぜひ来年度以降も、あえて地方都市を選んでいただき、京都大学の多様性を重んじる気概を見せていただけるとありがたいです。できればまた愛媛がうれしいですが、他の地方都市でも知的好奇心をくすぐられる若者が待っていると思うます。 1日、久しぶりにアカデミックな空間を楽しむことが出来ました。ありがとうございました。
40代	会社員	長時間なので最後まで持つ心配でしたが、あっという間で充実した時間を過ごせました。京都大学の先生方がご自身の研究を楽しそうにお話しさせていたので、次世代のためにもぜひ成果をあげて頂きたいと感じました。
10代	高校生(学生)	室内さんの講演でカーボンナノチューブについて関心が高まり、研究が偶然の連続なのだということが理解できた。これからの可能性として希望が持て、非常に面白かった。 館野さんの講演で窒素の危険性が分かり面白かった。 内容として理解できない箇所も多かった。 オンライン開催画面も見やすく非常に良かったので、次回もまた参加したい。
40代	高等学校教員	研究などの講演をありがとうございました。とても良い機会になりました。
50代	会社員	是非息子(現在中2)を進学させたい大学です。私自身学び直したいと感じた1日になりました。ありがとうございます。
10代	高校生(学生)	もともと興味のある講義の他 面白い語り口、面白い内容の講義も聞いてみようと思っていたが、興味のない講義は興味の湧かないまま終わった。プレゼン資料は一目で内容を理解できる素晴らしい出来だった分、プレゼンを改善してほしいと思った。また、内容も簡単すぎて正直退屈した。京大に興味のある高校生はある程度基礎知識を持っているのだと仮定して、有名な用語や学問分野についての説明は簡潔に済ませて良いと思う。そして日頃の思考に応用の効くような本質的な内容を強調するともっと関心を持って聞ける。
10代	高校生(学生)	とても有意義な時間になったと思う。
10代	高校生(学生)	30分のプレゼン時間は短いと思いました。
70代	その他	継続は力なり、今後とも惠贈していただけることを心よりお願い申し上げます。

年齢	職業等	その他、ご意見・ご感想をお聞かせください。(600字以内)
10代	高校生(学生)	このような機会はなかなか無いものなので、とても貴重な機会になりました。私たちの学校でも課題研究として、あることを研究したりとすることがあったのですが、本格的な研究の講演を見てすごく勉強になりました。
10代	高校生(学生)	ワクワクするような講演会を開いていただきありがとうございました。
30代	高等学校教員	このようなアカデミックな会を愛媛で開催していただき、本当にありがたいです。 情報化が進んでいるとはいえ、地方では学術的なものに触れる機会は、都会よりも圧倒的に少ないので、大変良い機会となりました。 今、地方では、やりたいことを見つけ、思うままに追究することへの関心が低下しているように感じています。今回のような機会を私自身がまず大切にしたいと感じました。 今回はwebでの参加となりましたが、このような社会状況が改善すれば、次回は是非現地で参加致したいと思います。本日はありがとうございました。
50代	その他	個別の講演の時間をもう少し長くとも良かったと思います。急ぎ足で時間を気にしながらの説明が、気の毒でした。その分、質問コーナーの時間を削れば良かったと思います。
60代	その他	オンライン研修ができてありがたい。 アンケート文章入力の仕事組みが慣れているものもちがい、非常にやりづらかった。
10代	高校生(学生)	どの先生も語り口が面白く、分かりやすく解説していただけたので貴重な経験が出来ました。進路についても参考になることが多く、もっとこのような機会があったら良いなと思います。
60代	会社員	後日、またこの内容を見ることが出来るとのことで、その時にはもう一度見てみようと思います。
60代	大学生(学生)	地球温暖化を防ぐために二酸化炭素ばかりが取り上げられるのはいかがかと思ってました。メタンガスや今回取り上げてもらった肥料などからの窒素酸化物についても世の中に知らせていくことが大切だと思いますので期待しています。
80歳以上	その他	パラダイムシフトというテーマであれば、人文科学系(哲学、倫理学、史学、文学、政治学等)の領域を組み込めば、大きな視野で、グローバルなパラダイムシフトが可視化するのは…と思う。もっとも、それには、数日を要するので、無いものねだりであろう。
50代	会社員	質問の締め切り時刻を予め知らせてほしかった。オンラインでの参加で、進行に関しての情報が少なかった。
50代	中学校教員	来年度も開催してください。次は法学や国際関係、政治などの分野も取り上げて欲しいなと思います。
50代	会社員	多数の学問領域の話が聞けて良かったです。ありがとうございました。
10代	高校生(学生)	私も研究者になりたいのですが自信がありません。すぐげちゃうのをなんとかしたいです。
50代	会社員	今回は配信で参加しましたが画面も見やすく分かりやすかったです。 今後も配信を続けるのであれば参加したいです。
70代	その他	原子力発電について課題を整理して下さい。
50代	会社員	コロナの感染がまだ多いので、オンラインでも行っていただき、たいへんよかったです。普段は聞くことのできない講演により、新しい知見を見せていただきました。興味をもった話題もあったので、これからもっと調べてみようと思います。またこのような機会を作っていただきますようお願いいたします。ありがとうございました。
60代	中学校教員	講演の内容によって、興味があるないが分かれるので、シンポジウム形式でなく、選択して視聴できる形式にしてくださいと、もっと別の方の講演も聴けて良いと思った。
50代	その他	初めてこういうシンポジウムに参加させていただきました。勉強になりました。ありがとうございました。
70代	その他	また機会があったら参加したいです。
10代	高校生(学生)	建築に関しての講演を聞いてみたいなと思います。
10代	高校生(学生)	これからも開催していただきたいです。
60代	その他	会場で生の雰囲気を味わいたいと申し込みましたが、急な体調変化の都合で急遽オンライン参加とさせていただきます。コロナ禍での不便さの一方で、デジタル社会のメリットも感じます。
60代	その他教員	地方で京都大学の先生のお話を聞けて、大変ありがたく思います。 ありがとうございました。
10代	高校生(学生)	現地には足を運ばせませんでした、このようにオンラインでの参加をできて良かったです。高校生である私にとっては理解することが難しい面もありましたが、私が興味を持つ理科系のお話を詳しくかつ易しい内容で聞くことができてとても嬉しく思います。ありがとうございました。

京都大学 附置研究所・センターシンポジウム

「京都からの提言——21世紀の日本を考える」

- 第1回 平成18年3月16日(木) 10:00~17:30
東京・品川インターシティホール
サブテーマ:「危機をいかに乗り切るか? 東アジアといかに向き合うか?」
- 第2回 平成19年3月17日(土) 10:00~17:00
大阪・エルおおさか(大阪府立労働センター)エル・シアター
サブテーマ:「ノーベル物理学賞受賞者「湯川・朝永両博士が拓いた世界」
~湯川・朝永両博士 生誕百年に因んで~
- 第3回 平成20年3月8日(土) 10:00~17:15
横浜・新都市ホール
サブテーマ:「人間と自然:新たな脅威と命を守るしくみ」
- 第4回 平成21年3月14日(土) 10:00~17:25
名古屋・名鉄ホール
サブテーマ:「学問のつながりのユニークさ:それがつくる明るい未来」
- 第5回 平成22年3月13日(土) 10:00~17:15
福岡・アクロス福岡
サブテーマ:「グローバル社会に生きる—未来を見据える目」
- 第6回 平成23年7月3日(日) 10:00~18:00
京都・京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホール
サブテーマ:「混沌の時代に光を探る」
- 第7回 平成24年3月17日(土) 10:00~17:00
神戸・神戸国際会議場メインホール
サブテーマ:「明るい社会の未来像」
- 第8回 平成25年3月16日(土) 10:00~17:15
札幌・北海道立道民活動センター「かでの2・7」かでのホール
サブテーマ:「科学が見いだす日本の進路」
- 第9回 平成26年3月15日(土) 10:00~17:15
仙台・仙台国際センター 大ホール
サブテーマ:「社会と科学者」
- 第10回 平成27年3月14日(土) 10:00~17:20
広島・広島国際会議場国際会議ホール
サブテーマ:「活力ある未来の“想像”と新たな展開を求めて」

「京都からの挑戦——地球社会の調和ある共存に向けて」

- 第11回 平成28年3月12日(土) 10:00~17:00
東京・品川インターシティホール
サブテーマ:「翔ぶ、京大」
- 第12回 平成29年3月11日(土) 10:00~17:10
金沢・石川県文教会館
サブテーマ:「^{フリースタイル}自由風格、京大」
- 第13回 平成30年3月17日(土) 10:00~17:00
岡山・おかやま未来ホール
サブテーマ:「^{きょうだいほるかぜをおこす}京大起春風」
- 第14回 平成31年3月9日(土) 10:00~17:00
浜松・えんてつホール
サブテーマ:「^{まんだら}京大曼荼羅」
- 第15回 令和2年3月14日(土)《開催中止》
熊本・くまもと森都心プラザホール
サブテーマ:「京大・学の地平」
- 第16回 令和3年3月6日(土) 10:00~17:00
熊本・くまもと森都心プラザホール
サブテーマ:「コロナ禍を越えた新しい世界へ」—未知の原野を行く—
- 第17回 令和4年3月5日(土) 10:00~17:00
松山市民会館 大ホール
サブテーマ:「パラダイムシフト——新しい世界を創る京大」